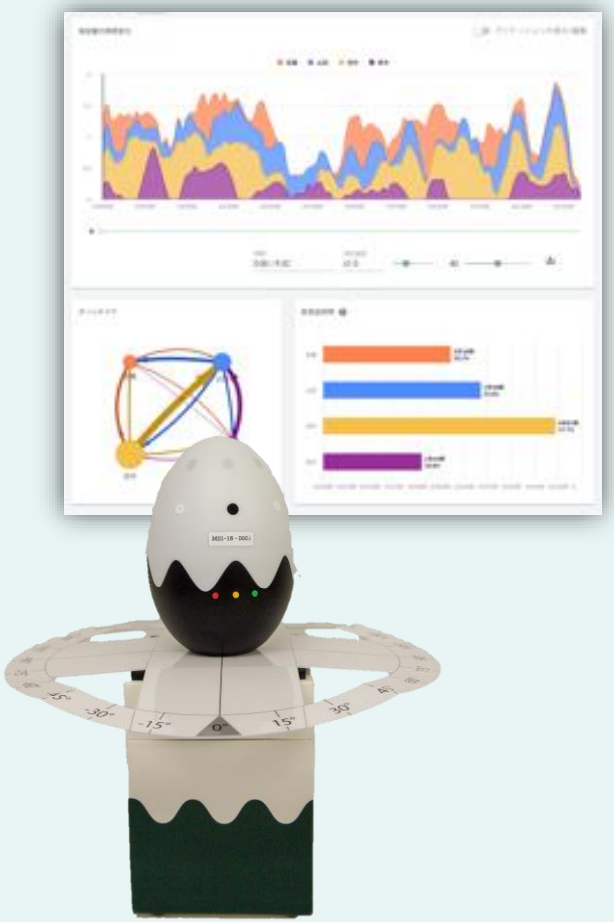
話し合いの見える化で自立した学習者に
―工学院大学附属中学校・高等学校の事例―
【EdTech補助金成果報告】



ハイラブル株式会社

目次

1. ハイラブル株式会社に関する情報
2. EdTech市場の分析とハイラブル株式会社の位置づけ
3. サービス紹介
   ①対面の話し合い見える化 Hylable Discussion
   ②Web会議の見える化 Hylable
4. 工学院大学附属中学校・高等学校の成果

ハイラブル株式会社に関する情報

社名の由来

カエルのように上手に雑音の中から
目的の音を聞き分ける技術を実現する

接尾辞「可能」

Hylable

ニホンアマガエルの学名
Hyla japonica

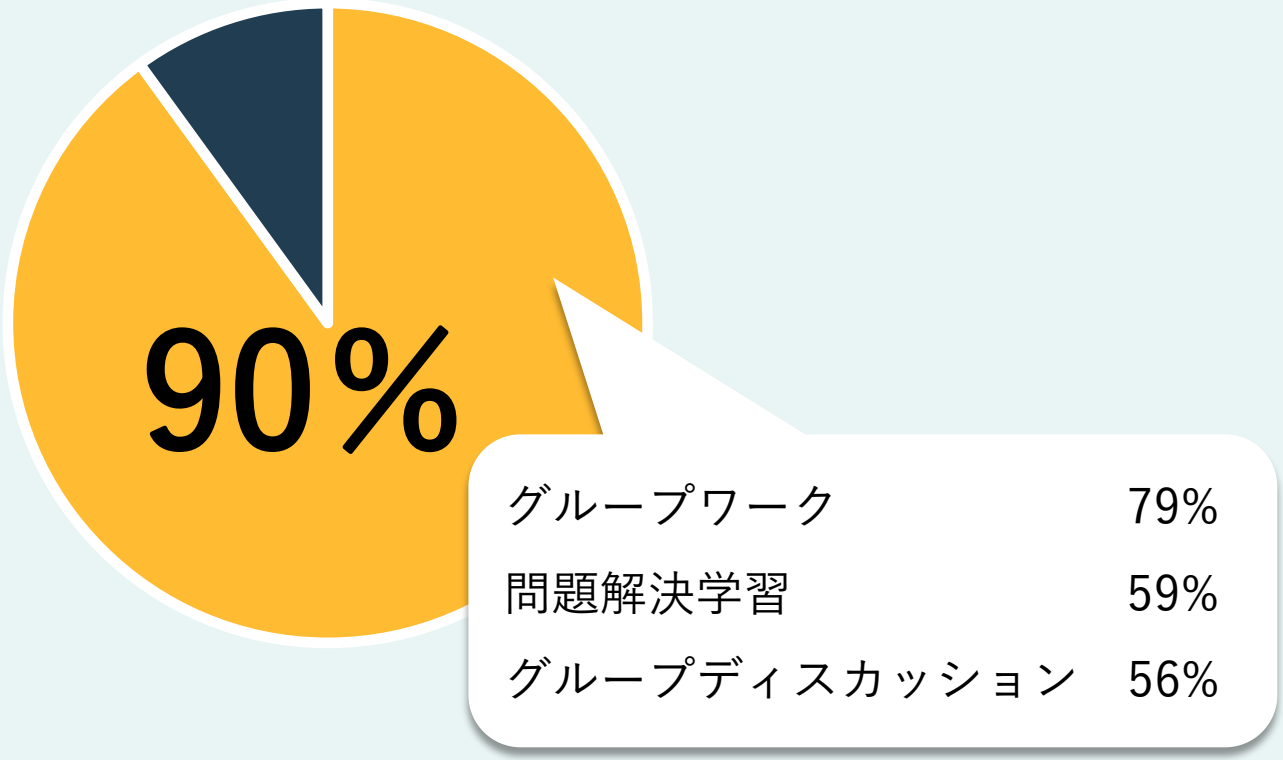
会社概要

会社名	ハイラブル株式会社 (Hylable Inc.)
経営陣	代表取締役　水本武志　博士(情報学) 取締役　菅原哲也　修士(工学)
設立	2016年11月21日
事業内容	メディア信号処理やコミュニケーションに関する商品やサービスの企画・製品・運用・販売・情報提供・コンサルティング等
本店	東京都豊島区南大塚3-34-7 丸善大塚ビル 5-C
資本金	600万円（資本準備金含む）
顧問	弁護士法人 内田・鮫島法律事務所 税理士法人 市川会計
従業員数	7人

EdTech市場の分析とハイラブル株式会社の位置づけ

学校の授業が大きく変化

国内の小中学校で話し合いを中心とした アクティブ・ラーニングを導入



- R. J. Beichner “The SCALE-UP Project: A Student-Centered Active Learning Environment for Undergraduate Programs.” *Board on Science Education*, 2008.
- (株)デジタル・ナレッジ アクティブラーニングに関する意識調査報告書, 2015.

EdTech市場の分析とハイラブル株式会社の位置づけ

アクティブ・ラーニングの課題

プロセスが形に残らないので、振り返りや評価が難しい

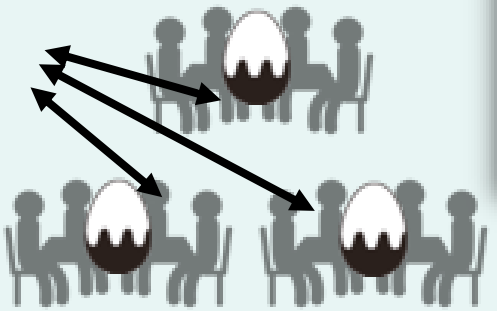
ハイラブルの話し合い見える化サービスの強み

話し合いを見える化し、客観的なエビデンスを提供。
コロナ禍などで対面の話し合いが行えない時も、
Web会議版サービスの利用で同様の見える化が可能。

サービス紹介① 対面の話し合い見える化
Hylable Discussion（ハイラブルディスカッション）

たまご型レコーダーで録音した話し合いを見える化するサービス

- 特長1　発話量・やり取りなどが自動でグラフやレポートに。
- 特長2　クラスで一斉に話しても安定の分析。

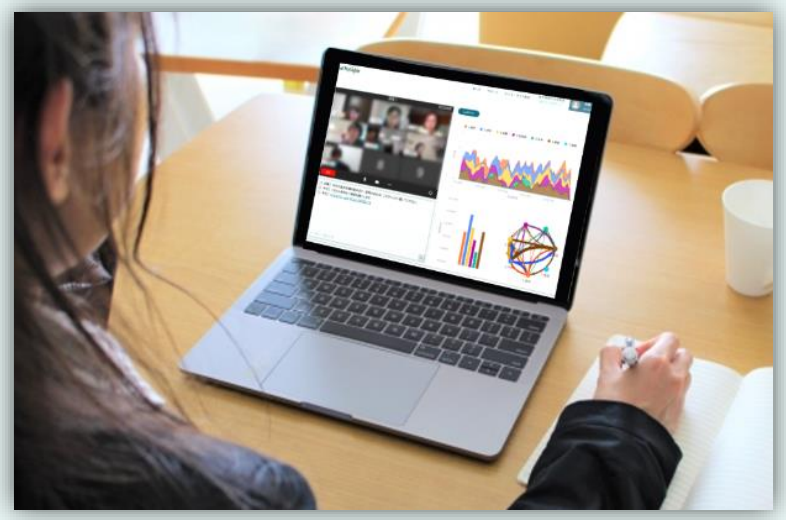


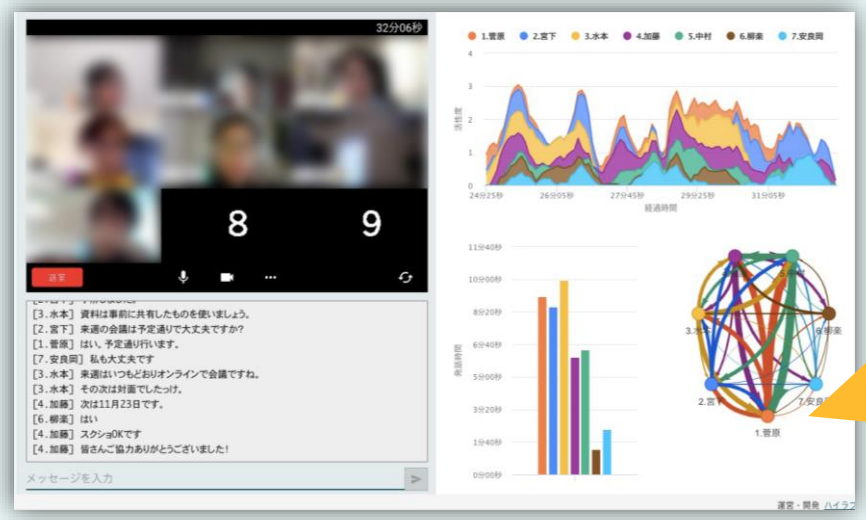
アカデミック価格（レンタルおよび分析サービス料）
・レコーダー1台1ヶ月　　2万円
・教育機関向けパッケージ　30万円　※詳しくはお問い合わせください

サービス紹介② Web会議の見える化
Hylable（ハイラブル）

専用Web会議システムでの話し合いをリアルタイムで見える化するサービス

- 特長1　リアルタイムで見える化されるので、その場で行動変容できる。
- 特長2　すべてのグループの様子を外からグラフで一覧できる。





第17回（令和2年度）
日本e-Learning大賞
「厚生労働大臣賞」

対面の話し合い（Hylable Discussion）と同じデータが見える化される！

アカデミック価格
1ルーム1ヶ月から利用可能。※詳しくはお問い合わせください

工学院大学附属中学校・高等学校の成果
導入概要

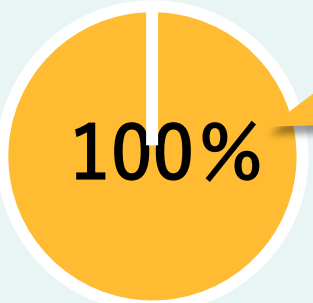
- 導入校：**工学院大学附属中学校・高等学校**（東京都八王子市）
  科学的な考え方を醸成する教育を土台に、21世紀型教育を実践。
  英語教育に力を入れ、ケンブリッジ大学英語検定も導入。
  - 学校Webサイト（https://www.js.kogakuin.ac.jp/index.html）

- 利用場面：おもに高等学校の**英語グループディスカッション。**
  対面の日常的な授業とオンライン授業の両方で利用。

- 当社サービス導入に関するメディア掲載
  - 学校公式ブログ（http://kogakuin-jsh.hatenablog.jp/entry/2020/10/05/201843）
    （http://kogakuin-jsh.hatenablog.jp/entry/2021/01/30/184917）
  - Impress Watch（https://www.watch.impress.co.jp/kodomo_it/voice/1302397.html）

工学院大学附属中学校・高等学校の成果
導入前の不安とその解消

教員の準備が大変そう



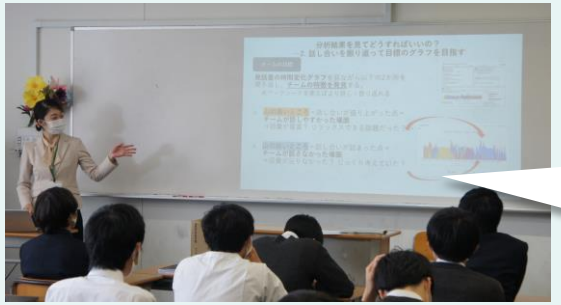
生徒が操作できるサービスなので、先生の負担が少なかった

工学院大学附属中学校・高等学校の先生へのアンケート（回答者のうち）（ハイラブル株式会社、2021年）

教員はたまご型レコーダーを教室へ持って行くだけです

英語科・中川千穂先生

データを活用できるか不安



好評の活用セミナーを生徒向けに2回開催

学校のWi-Fiで使える？

校内Wi-Fi（5GHz）が当社標準（2.4GHz）ではなかったが、当社モバイルルーター貸出で対応。
※2021年度はレコーダー改造で5GHzへの接続予定

工学院大学附属中学校・高等学校の成果
3つの成果

成果①	振り返りで生徒が自立して学ぶように
成果②	労力の少ない評価が可能に
成果③	オンライン授業でも振り返りや指導が簡単に

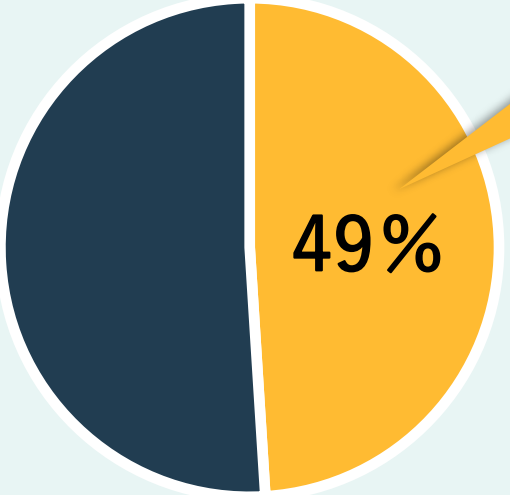
工学院大学附属中学校・高等学校の成果
① 振り返りで生徒が自立して学ぶように

導入前の課題：話し合いは形に残らないため、生徒が自分を客観的に振り返ることが難しかった。

導入後の成果

生徒は見える化された分析結果を見て、日常的に客観的な振りを行うように。振り返り後**「もっとよく話せるようになりたい」といった目標を自分で立てるようになり、発話量を増やすことができた生徒も。**

Hylable Discussion による工学院大学附属中学校・高等学校の生徒の分析結果（2020年）



積極的に発言するようになった

スピーキングテストでの改善点を詳しく知ることができ、テストの点数が上がってきました
（高校2年生のアンケート自由回答より）

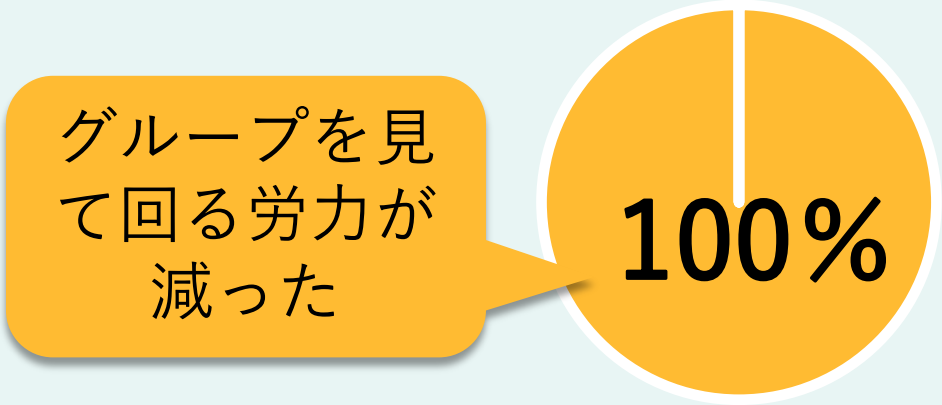
工学院大学附属中学校・高等学校の生徒へのアンケート（ハイラブル株式会社、2021年）

工学院大学附属中学校・高等学校の成果
② 労力の少ない評価が可能に

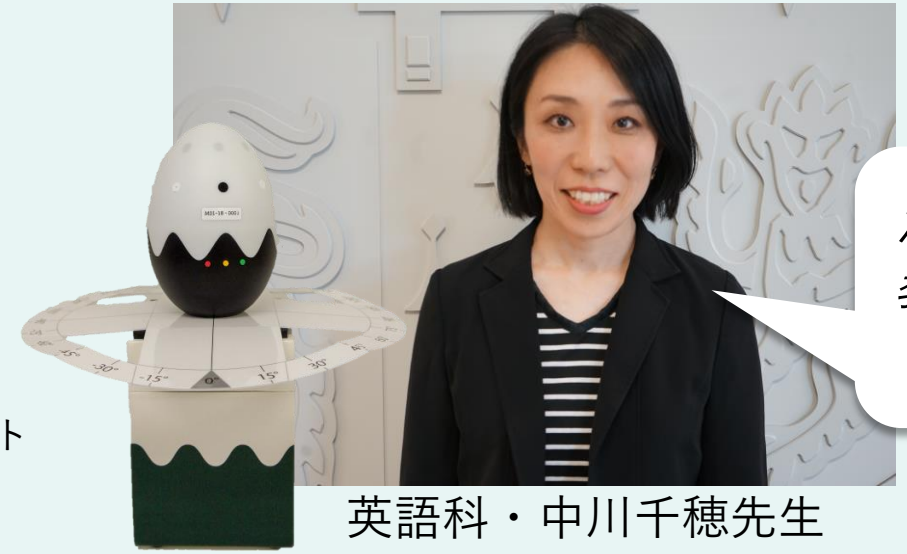
導入前の課題：先生がすべてのグループを見て評価するためには、ビデオ録画、会話の書き取りなど多大な労力が掛かった。

導入後の成果

すべてのグループの話し合いが自動で見える化されるようになり、アンケートでは**教員の100%が「グループを見て回る労力が減った」**と回答。
さらに、これまで目立たなかった**生徒の活躍や貢献を発見し、評価できた。**



工学院大学附属中学校・高等学校の先生へのアンケート（回答者のうち）（ハイラブル株式会社、2021年）



英語科・中川千穂先生

たまご型レコーダーが教員の代わりになってくれます

工学院大学附属中学校・高等学校の成果
③ オンライン授業でも振り返りや指導が簡単に

導入前の課題：オンライン授業では、Web会議システムでグループディスカッションを行っても、先生からはその様子が見えなかった。

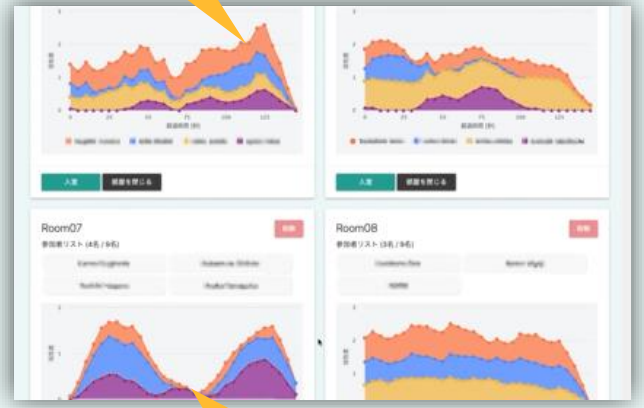
導入後の成果　オンライン授業でWeb会議の見える化サービス Hylable を利用し、**先生・生徒の双方に見える化された話し合いが**できた。

生徒

リアルタイムで見える化され、その場で行動を変えられた

工学院大学附属中学校・高等学校でのHylable利用の様子
（同校公式ブログ http://kogakuin-jsh.hatenablog.jp/entry/2021/01/30/184917 より）

活発！



停滞？

先生

全グループの様子を一覧し、目的をもって介入・指導できるように

工学院大学附属中学校・高等学校の成果
英語科・中川千穂先生インタビュー

導入の理由は？

英語科の目標は、「自立した学習者を育てる」「省察を促進する」。自分を振り返って先に進むためのツールを生徒に提供したかった。

生徒たちの行動は変わりましたか？

ハイラブル株式会社代表取締役
水本武志

中川千穂先生

*もちろんです。**「次はもっと喋ろうと思う」**というのがものすごく多い結果でした*

***話し合いの見える化で培った能力や態度は、生徒たちが社会に出てもずっと残る**と思っています*

インタビュー詳細は、EdTech補助金成果報告動画をご覧ください

工学院大学附属中学校・高等学校の成果
今後の見通し

工学院大学附属中学校・高等学校 2021年度の展開

① エビデンスに基づくグループ編成

② 海外の学校とのオンラインでの共同授業

ハイラブル株式会社の今後の展開 ―海外へ視野を広げる―

- 「言語に依らず音の量の情報を分析できる」「オンラインで使える」という強みを活かし、日本と海外の学校の共同授業をサポートしたい。
- 一人一人に最適化したコミュニケーション力改善のアドバイスを提供するために、コミュニケーションを国際比較して知見を蓄積したい。

Hylable